

## 校長による個人目標提示の強制は誤りです ～2年目の「新勤評」試行にあたって～

昨年度試行された「人事評価・育成システム」は、教職員に成績主義賃金を導入し、国民に対する全体の奉仕者ではなく、政府・文科省に忠実な「物言わぬ教職員」づくりをすすめる攻撃のなかで出されたものであり、評価を賃金・処遇にリンクさせる制度づくりがその要のねらいです。

しかし、私たちは、05年度末の確定闘争においてたつぎの歯止めをかけました。

- (1) 「人事評価・育成システム」の目的は「教育をよくするためのものである」ことを県教委に言明させたこと。
- (2) 教職員に対する評価が直接、賃金・処遇に影響するものではないことを約束させ、その目的は「教職員の能力開発と教育活動の充実」であることを明示させたこと。
- (3) 校長による教職員ひとりひとりの面談を必ずしも実施しなくてもよいという点を「要綱」に盛りこませたこと。
- (4) 一般教職員に対する目標管理システムは、教育現場にあわないものであることを当局に言明させたこと。

また、今年度も本格実施ではなく、試行とさせたことは昨年度の取り組みの重要な成果です。

昨年度の試行でこの制度が何ら教育をよくするものでないことが明らかになっていますが、成績主義の導入につながらないようにする取り組みがますます重要になっています。

### 根拠のない「面談シート」の提出

県教委は、今年度の評価・育成システム実施要綱を発表していませんが、基本は昨年度どおりとしており、管理職による一般教職員への面談が開始されている学校も出てきています。

ところが、いくつかの学校では、校長が「面談シート」の提出を求めています。重大な問題はそこに一般教職員の評価とは関係のない「個人目標」の記入が求められていることです。

一般教職員については、目標管理システムはとらないということが「評価・育成システム」の重要な点です。にもかかわらず、評価にかかわって「個人目標」の提出を求めることは重大な要綱違反です。

### 教育目標は教職員集団で確立するのが教育の条理

そもそも学校の教育活動は集団的な営みであり、その目標は職員会議等、教職員集団全体

でつくられていくものです。そして教職員ひとりひとりがそのなかでどのような役割を果たすかは、分掌等の役割分担によって自ずと決まっていくものであり、全体のなかでこそ明らかになっていくものです。

それを校長が各個人に「目標を書け」などということは校長が教職員の教育活動に対して、を恣意的な影響力を及ぼし、学校教育を校長の支配下におこうとするものです。

教育目標や実践状況に対する討議は職員会議等の諸会議のなかで行われるものであり、校長・教頭も必要に応じて意見を述べることは当然のことです。その基本を無視した個人目標の提出など学校を混乱させるだけです。

### 「面談シート」の提出は拒否します。

校長が面談シートの提出を求めることは、以上のように根拠がないばかりか、個人目標の記入など、「人事評価・育成システム」の趣旨そのものに違反しており、このようなシートの提出については私たちは拒否していきます。シートの提出に何ら根拠がないことは県教委も認めており、ましてやその提出の有無は評価の対象ではありません。

### 面談に対する私たちの態度

面談については、昨年度提起した、次のような態度があらためて重要です。

- 1 校長面談において「個人目標」の提示を求めることは、05確定交渉における県教委の高教組への回答ならびに県教委自身が作成した「教職員人事評価・育成システム試行の概要」での「目標管理制度を導入せず」と明記していることに明らかに違反しています。校長が「個人目標」の提示を求める場合には、高教組は面談そのものを拒否します。
- 2 面談のテーマとなっている「重点的取組み目標」は、年度当初の職員会議等で決定され、各分掌で具体化が進められています。それらの諸会議で本年度の面談は終了しているものとして扱うのが妥当です。したがって高教組は、個人面談の実施に反対します。
- 3 校長がどうしても面談が必要であるという場合には職員会議や各分掌等の集団で行います。「重点的取組目標」は学校全体で進めていくものです。校長と個々の教職員の面談を一律に実施する必要性はまったくありません。
- 4 いかなる形態であっても「システム」にかかわる面談において、校長が「個人目標」の提示を求める場合にはその点についての面談は拒否します。
- 5 「重点的取組み目標」に関する意見交換は全教職員で共有されることが教育効果を発揮するために必要です。校長と個々の教職員のあいだでとどめておかなければならないような秘密事項など存在しませんし、存在させてはなりません。「個人面談」が実施された場合にはその内容はオープンにされるべきものです。積極的に職場の仲間に対して明らかにし、交流していきましょう。

